

環境白書の刊行にあたって

地球温暖化への対策は人類共通の課題であり、世界的にカーボンニュートラルに向けた取組が加速し、今、世界中で大きなゲームチェンジが起っています。

群馬県では、災害に強く、持続可能な社会を構築するとともに、県民の幸福度を向上させるため、2019（令和元）年12月に「ぐんま5つのゼロ」を宣言しました。さらに、昨年3月には、「2050年に向けた『ぐんま5つのゼロ宣言』実現条例」を制定し、あらゆる施策において「脱炭素」を主要課題に位置付けて、全庁体制での取組を進めています。

この課題に対応するためには、国や自治体だけでなく、あらゆる主体が連携して、共通の課題への認識を深め、行動する必要があります。

群馬県では、行政や産業、金融、大学・研究機関などによる官民共創の取組を広げるため、2022（令和4）年12月に「ぐんまG I（グリーンイノベーション）アライアンス構想」を発表し、このアライアンスの中心となる共同事業体「革新的環境イノベーションコンソーシアム」を立ち上げました。

持続可能な自立分散型社会への変革と経済成長の両立を目指すグリーンイノベーションを推進していくためには、こうした連携がますます重要となっています。

そして、脱炭素社会や循環型社会を実現するためには、私たち一人ひとりが、「住まい」「移動」「食」「ファッション」等でライフスタイルを変えていくことが求められています。

これからは、省エネ・創エネで快適な住まい、デジタルも駆使した多様で快適な働き方や暮らし方など、より豊かに自分らしく、快適・健康的に過ごしながら、脱炭素・循環型社会の実現につながる「新しい暮らし」への移行を県民の皆様とともに目指してまいります。

この「環境白書」は、群馬県の環境全般の現状を明らかにし、多岐にわたる環境問題の解決に向けた取組の実績及び2023（令和5）年度に講じる施策についてまとめたものです。県民の皆様が本書を通じて、群馬県の環境の現状や将来に関心を持ち、持続可能な自立分散型社会の実現に向けた行動を始めるきっかけにいただければ幸いです。

2023年9月

群馬県知事

